

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティが10月24日から開始されるため、販売数の増加が期待できる。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・販売単価を安くし、来客数や販売量の増加を目指す作戦が功を奏しており、今後は売上の増加が期待できる。
		百貨店（営業担当）	・秋物商品が徐々に売場に並びつつあるが、売上金額としては小さいものの、前年の1.5倍となっている。また、従来は秋冬物で敬遠された白色が雑貨や婦人服に見られ、消費の活発化を予感させる。
		コンビニ（店長）	・9月からの酒類販売の完全自由化により、新たに酒の取扱を始める店はおつまみなども含め売上が増加する。コンビニ業界としては明るい材料である。
		家電量販店（店員）	・年末に向けて地上波デジタル放送が地元の全テレビ局で実施されるため、デジタルチューナー内蔵型のパソコンをはじめ、デジタル関連機器が順調に伸びる。また、商品単価も全般的に上昇する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼関係の受注件数は伸び悩んでいるが、来客数の増加傾向が続くレストラン部門、受注件数が増加している一般宴会、客室稼働率の上昇を見込む宿泊部門でそれぞれ増収が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・好調な鉄鋼・非鉄・金属・機械などの製造業を中心に、福利厚生の一環として職場旅行や従業員向けの個人旅行などの問い合わせが増加している。
		通信会社（営業担当）	・10月から携帯電話業界では番号ポータビリティが始まり、他社からの乗換えを始め様々なサービスが導入されるため売上は増加する。
		通信会社（役員）	・例年、秋から年末に向けてデジタルテレビの需要が増えており、これに連動する形でケーブルテレビ契約数の増加が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話業界では番号ポータビリティが10月24日から開始される。通信事業者の競争が加速し、販売店にとっても販売増加のきっかけとなる。
変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・底引き網漁やカニ解禁の季節的要因で売上は確実に伸びるが、利益率が問題である。	
	百貨店（営業担当）	・秋物の流行商品の動きが見え始めているため、秋物ファッションについては前年並みか前年以上の実績が期待できる。しかし、近隣に競合店のオープン予定があるため、多少の影響を受ける。	
	スーパー（店長）	・所得格差が消費行動面にも現れている。生活防衛に回る消費者と富裕層との消費態度の違いが来客者の動きにはっきりと見える。	
	スーパー（総務担当）	・9月も残暑が続き、秋の訪れが遅れる気配がある。また、ガソリン高騰による配送コストの増加が、商品価格にどの程度影響するかが懸念材料である。	
	スーパー（副店長）	・8～9月にかけての残暑が秋物商品の販売に陰りを与え、秋の季節感のなさが消費の低迷に影響する。	
	乗用車販売店（総務担当）	・景気が上向いていると言われながらも、自動車市場は厳しい状況である。年末までは新型車の投入がなく、販売が上向く要素は少ない。	
	乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格の値上がりが続いているため、軽四の販売台数は伸びているが、普通車は落ちており、総量では変わらない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・11月に駅前で大規模ショッピングセンターがオープンする予定である。北陸地域では初登場となるブランド店も多く、人の流れが大きく変わる。	
	一般レストラン（スタッフ）	・採用難が続いているなか、年末に向けて、主婦層が扶養家族対象年収に抑えるためのパートタイマー離職時期とも重なり、人手不足はなお深刻化する。野菜の価格も下がったとはいえ、まだ昨年に比べれば高値で推移しており、台風の状況によっては分からない。	
	観光型旅館（経営者）	・原油高、借入金利の上昇などが懸念材料である。	
観光型旅館（スタッフ）	・11月までの予約状況は前年を上回っている。		

		タクシー運転手	・タクシー台数は依然として多く、大きなイベントもなく、客に節約傾向が見られる。週末に若干の人出があっても、総体的には良くならない。
		タクシー運転手	・9月の地元の踊りの大イベントは、曜日配列も良かったためタクシーの利用は多くなるが、それ以降は暇になる。また、引き続き燃料代の高騰が経営を大きく圧迫する。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の新機種や目玉機種の発売予定が特にないため、新機種の発売に備えて買い控えが発生する。
		その他レジャー施設（職員）	・客単価の動きは、相変わらず悪い。売上増大をねらったイベントを企画しても財布のひもは固く、売上が伸びない現状が続く。
やや悪くなる		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・石油高騰の影響を受けて、文具業界でも来年から値上げという話が出ている。また、鋼材の値上げも懸念材料として横たわっており、先行きは厳しい。
		スーパー（店長）	・このまま原油価格が高騰すると、ティッシュなどの紙製品が値上げされ、客の購買意欲が低下する。
		スーパー（店長）	・ライバルの新規出店があり、競争が更に激化する。
		コンビニ（経営者）	・このままガソリンの値上げが続くと、近くにある公営施設などへの人出が悪くなり、来客数にかなりの影響が出る。
		自動車備品販売店（従業員）	・ガソリンの高騰が続く懸念があり、自動車の利用について総額を抑える動きはまだ続く。今後は家電のデジタル関連用品との勝負になる。
		テーマパーク（職員）	・2、3か月先の予約数は前年比で2けた近い減少となっている。特に団体、グループ、ツアー客で鈍い。
		競輪場（職員）	・8月に行われた5年に1度の特別イベントが低調に終わったことや、これ以外の開催でも1日当たりの売上高で3か月連続の減少となっており、今後の見通しは厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・金利上昇や原油価格高騰の影響から、厳しい状況が続く。来客数も減少しており、新築を計画する客も今後増えるとは思えない。
悪くなる		商店街（代表者）	・暑い日はまだ続くが、夏物商品の品薄状態から売上の更なる低迷が予想される。また、家計に占める洋服の支出割合が減少しており、婦人服店では更に厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車業界にとって燃料の不安定な供給や高騰する価格は販売のブレーキになっている。特に景気回復の遅れている地方では消費がより冷え込む恐れがある。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・新製品の受託が近く発生する。
		金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の受注の入り具合が良い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連は先行きに慎重であるが、パソコン、携帯電話などの弱電関係は秋口から新製品の立ち上がりや、既存品の増産が期待できる環境となってきた。
		輸送業（配車担当）	・ここ2、3か月は物量が前年実績を超えており、先行きに明るさが見える。ただ、原油高騰による燃料費の増加が不安材料である。
変わらない		繊維工業（経営者）	・厳しい残暑のため、秋物の立ち上がりが気になる。また、原油高に伴う原料、燃料の値上がりをいかに価格に転嫁できるかが課題である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・2年前の値上げ交渉で不調に終わった先に再交渉しているが、難航しており、先行きは厳しい。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・中長期的にはやや良くなる傾向にあるが、当面は原油価格、金利動向、為替等の懸念部分があるため、急激な変化はない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・前年と比較して売上は下降傾向で推移している。
やや悪くなる		精密機械器具製造業（経営者）	・材料費関係の高騰と中国製商品の国内流入量再増加の影響が続くため、産地における仕事量は更に減っていく。
		輸送業（配車担当）	・軽油は値上がりするが、運賃の値上げはできないため、利益が出ない。
悪くなる		建設業（経営者）	・9、10月の受注工事が見えない。公共工事の発注が減り、元請工事の受注が難しいなかで民間工事の下請受注に注力している。下請として採算割れを避けたいが、元請業者も低価格で受注しているため、やむなく労務費が賄えれば受注するという対応も考えなければならない。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-

変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人状況に大きな変化はない。依然として、ある程度スキルのある人材の不足状態が業種を問わず続く。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・相変わらず、求職者からの応募が業種を問わず少なく、企業によっては短期的な仕事や突発的な仕事の人員確保に派遣を使うようになっており、自社の正規社員採用の動きは鈍い。しばらくはこの状態が続く。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数に大きな変動の兆候が見られないことから、大幅な変化はない。
	職業安定所（職員）	・業種間にばらつきはあるが、原油価格の高騰により収益が圧迫され、自主廃業、事業縮小する企業も出ている。
	職業安定所（職員）	・求人の応募がないことから、非正規から正規へ切り替えた求人が製造業で数件出てきているが、相変わらず非正規型求人が全体の半数を占め、景気の先行きは不透明である。
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人は一部の好調な企業で増加傾向にあるが、ほとんどは横ばい状態である。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-